

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(127号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰：使命-10年を振り返って

- 2011年の東日本大震災に触発されたかのように、近年日本は地震、豪雨、巨大台風の被害が続き、9月5日には震度7の大地震が北海道を襲い、多くの人命と家屋が失われ、山崩れなどの自然の破壊も起こりました。
- 日本は地理・地質的条件から地震や台風は避けられない環境にあります。しかし、こう頻繁に自然災害が起これば日本という国が立ち行かなくなるのではないかと心配します。
- こういう思いも寄らない大きな変化は、人間社会でも、教会でさえも起こることを経験してきました。私たちのこの小さい「祈りの家」の立ち上げについては、今まででも多くの方々から質問を受けて来ました。
- 協議会の開拓伝道計画の中で、私の家での1年間の祈りの準備をして、遣わされた牧師と共に前の教会では、信徒だけで借財をしながら会堂をも建て上げました。しかし、残念なことに次々と牧会者が自ら申し出た契約期間を全うせず、さらに教会に生じた問題が原因で会員が次々と教会を離れました。
- そのような経過の中、教会を出た兄弟たちからあなたの家で「家の教会」を始めて欲しいという要望が出て、神学校長からも「その人達が信仰を失わないように、あなたの家で家の教会を始めなさい」と勧められました。その結果、10年前に私たちの「祈りの家」が始まった。これが真相です。
- 訓練を受けたリーダーがいないこの群の中で、その代表に選ばれたことは私にとっては大きな信仰のチャレンジでした。祈りの中で、神は、決して群から羊が離れ、散り散りに彷徨い、弱り果ててしまう望みでおられないことを示されました。
- 工藤信夫師は、トゥルニエ等の「暴力と人間」の紹介本の中で、藤木牧師の断想として「使命というのは、自ら買って出て担うものではありません。それは生かされている所で誠実であろうとする構えが、自然に見いだし、止むを得ないこととして担い、そして果たして行くものです。・・・今ある様を誠実に受けて、逃げない事です。」と私の心情をそのまま書いているのを見い出しました。
- それこそ青天の霹靂とも言うべき神への服従という選択でした。聖書では、自らリーダーとして立ち群を支配しようとする者は失敗し、「私には荷が重すぎます」と躊躇した者が神からの使命の中で変えられ、神の器として用いられています。
- 「こんな小さな、何の取り柄もない者ですが」と神の前で祈り、兄弟と共に互いに学び、互いに戒め、「残りの者」と言われるようにと「聖書の神を神として、誠実に生きる群」を目標にして歩もうと始めたのがこの群です。
- 発足と同時に、3.11の大震災が発生した中でも、神は決してこの小さい群を捨て置かず、共働者としてディーン師を、さらに多くの牧師やクリスチャン、教会、友人知人を支援者として起こして支えて下さった10年でした。地域教会の励ましに感謝して、10/14にはささやかな10周年の感謝の会を持ちます。
- 神の憐れみと皆さんの温かい支援と励ましに心から感謝し、最期まで誠実な歩を続けたいと祈られています。

先月の多くの恵みから

- ① 9/24に、地元の石巻日々新聞社からこの群の「楽しい手芸の会」の活動の取材があり、発足のきっかけとなったコール先生ご夫妻のご奉仕等の証しがありました。
- ② 9/23の礼拝に、震災以来奉仕と応援にいられている松浦賢さんご夫妻が出席して下さいました。礼拝後の愛餐会は楽しい交わりの時なり、兄の変わらないご愛に感謝しました。
- ③ 9/24に、地元の「ラジオ石巻」番組の市民とつなぐ「あな



召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。
(エペソ4/1)

たの出番です」に生出演し、30分間震災時の対応についてのインタビューを受ける機会が与えられました。

③ 昨年の10-11月に9回にわたる「石巻かほく」紙に続いて、この4月から1回石巻日々新聞「潮音」欄に書かせていただいたエッセーを9/14で無事終えることができました。

④ 9/15、震災時のサマリタンズパースの奉仕に続いて、石巻クリスチャンセンターの建設と運営の責任を持つことになったスティーブン・中橋兄とアンさんの結婚式が仙台で行われ、多くの兄弟と共に参加し、祝福を送ることができました。

⑤ 9/19に、オアシス教会に石巻の教会合同「ゆるしについて」の学び会の第6回目が持たれました。講師の川上直哉師の御労と深い学びを感謝しました。

⑥ 9/23に、震災後「東北ヘルプ」を立ち上げ、事務局長の任を担われてきた川上直哉師が、無牧だった石巻栄光教会の牧師として就任されました。その就任式に参加させていただきました。石巻の教会にとって霊的な素晴らしいリーダーを送ってくださった神に感謝しています。

⑦ 9/20には北方奈津子さん(フルート)と池田宏里(ギター)のコンサート、9/22にはLasting note(竹下 静さんと山本裕太さん)のライブ・コンサートが「希望の家」で開催され、多くの方が演奏を楽しみました。

⑧ 9月も、多くの兄弟より献金、献品、手紙、メール、電話、訪問等で群の活動を励ましをいただき感謝いたします。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 今野かつ子さん/二平幸子さん/千葉真理子姉/Dei姉/岸浪市夫先生の回復/新井李恵子姉の治療のために。
- ② 地域より求道者が起こされるように。
- ③ 大平英秀さんのために
- ④ 西日本・北海道の被災者のために
- ⑤ 開所10周年記念感謝会のために

群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応じて)	

信仰を詠う

10月 主にある友と

柔らかなことばが ひよこつと紡がれる
主に在る友がわたしを占める
いしころ
石魂を抱える暮しと若き日を
吐露する友と分かちしお恵み
やり直し叶わぬ思い引きづって
サマリア人のシーンに追われる



阿部 八重子

酷暑ようやく去りました。このところ災害が国中に発生しています。私達にできること、助け合いながら希望をもって歩みたいものと願います。

● <祈りの要請> 「石巻祈りの家」は 満10年を迎えて、神の憐れみと多くの教会・兄弟の祈りの支えに心から感謝しています。

8月末から9月末までに来訪された先生・兄弟/「祈りの家」の地区教会活動との関わり



9/2愛餐会でのアンさんとスティブさん、そして 9/15 お二人の結婚式

9/1 雨でオアシスCでの馬っ子山早天祈祷会

9/23 松浦ご夫妻来訪

9/22 JGCの亀山姉



9/23 川上直哉師の牧師就任式

Dr.木下夫妻より今年も見事なぶどう

Dean師の台湾からのお土産

楽しい手芸の会の可愛いお手玉セット

ヘブンリーブルーが今年は咲きました



9/22 Lasting note Concert

9/20北方・池田のコンサート

コーラス「花」の 練習風景

楽しい手芸の会が新聞取材を受ける

ほっと・Timeでピアノ演奏堪能

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

開所10周年の恵みを覚えて

石巻祈りの家

阿部秀子

今年の1月21日の礼拝で「もう1つの信仰—神の摂理」というメンターである森谷正志先生のメッセージテーマを見た時、「え？ もう1つの信仰ってどんな意味？」と思いました。先生は「摂理は神のお取り計らいと言っていいでしょう」と聖書全体を貫く神の摂理について話して下さいました。私たちが今、神の祝福の中にあること、当座は辛くとも全てを支配なさる神が最善をして下さり、神の幸いに与る豊かな人生へと導いられることを2017年の月報5月号に「この9年間を振り返って」のテーマで「祈りの家は祈られる家」と書かせていただきましたが、今は、私たちに「祈りの家」の始まりは、まさに神の摂理であったことがわかります。

2008.2.17、ここでの主日礼拝で第1号の週報も作られ、私たちは真っすぐに神さまを見つめて、みことばの下に歩み始めました。ここでの集会が始まると直ぐ、酒田ルーテル同胞教会の5人の兄弟が「チーム酒田」を結成して祈って下さり、私たちは「祈られる幸い」を身近な人が側にいる喜びとして与えられて来ました。以来10年間、もっと多くの方達に祈り支えられ、物心両面で大きな「神の家族」の幸いを味わわれています。「主が生きて働いておられる」の実感ではち切れそうな喜びです。父なる神のご配慮のゆえとしか言えません。

教会の中心に「みことばの学び」があり、信仰生活が輝き始めました。礼拝では、主にテープでのメッセージでしたが、終わってから短く自分が教えられた事を語り合い——これが知識だけでなく体の中にしみ込んできました——、祈り会では「ガラテヤ人への手紙」で始まって、時には難しくて頭を抱えるような沢山のテキストも、その度に一兄が分かり易い資料を準備してくれたので納得して次に進めました。主が、私たちに分かって欲しいと思われることを真剣に聞き続けたことがこの小さな群の大きな特徴だと思います。



3年が過ぎて、地域に教会案内を配り始めたその3月にあの東日本大震災です！ 激しい揺れと津波は人々の心にも押し寄せ、その中で教会の精一杯の支援活動が始まりました。ディーン宣教師を通じてサマリタンズ・パース等の支援団体から人々の必要のために祈りと共に溢れるばかりの物資が届けられました。震災以来、5年余りは目くるめくような支援の日々でしたが、詳細は毎月のシャーアルで詳しく報告をして参りました。兄弟が「この群がここで始まったのは、まさにこの震災に備えての神のご計画だった」と言いましたが、その通りだと思います。

今、私たちはいつもの教会スケジュールに戻りました。みことばを聞く期待で一杯の礼拝と祈り会。信徒だけの群のために礼拝奉仕をして下さった先生方、FEBCからのMP3Dの献品、CGNTVのTVアンテナ設置によって多くの牧師達のメッセージが開けるように配慮していただいて、開所以降1回も休むことなく(震災発生時1回他教会で)礼拝を持ち続けることができ、この9/30で562回目の礼拝を持ちます。月1回の「聖書を読む会」は日常の諸問題とも関連付けてのんびり読み進めています。学びだけではなく、ほっと緩み、音楽を中心とした香り高いブラジル・コーヒーとスイーツの「ほっと・Time」、時々依頼されて施設への歌の訪問で喜ばれ、私たちもコーラスの奥深さに浸る「コーラス・花」、又、賜物が豊かな姉妹達の指導で「楽しい手芸の会」は世界でたった1つだけの美しいものを生み出し続けています。そして訪問してくださるたくさんの方達！

特記しておきたいこの教会のも1つの恵みは、人数は少なくとも「そういう人に側にいてもらいたい！」と思われる豊かな賜物を持った兄弟姉妹の存在です。主がご用意して下さいました特別な一人一人です。礼拝にはメンバーの他、主のみことばを聴きたい方々が4名続けておいでになっています。

この10年、祈り、交わり、手紙、メール、献金、献品の支援を続けて下さっている方達に、お礼を申し上げようもない程感謝しております。主が私たちに示して下さいた道を、これからも歩んで参ります。そして、この10月には、地域の多くの教会に支えていただいたことを感謝して、ささやかな、でも喜びに満ちて、「開所10周年」の感謝会をもつことをする事になりました。皆さまのお祈りと支援を感謝しつつ。